



令和5年度

# 稔ヶ丘高等学校学校経営計画

## セルフコントロール

自分を高め、前に踏み出す強い心

他者とともに生涯  
チャレンジし続ける社会人

## チームワーク

多様な他者と協働して問題解決に向かう力

## クリティカルシンキング

疑問をもち考え抜く力

目指す生徒像

中期的目標と方策

- 1 生徒** : 「生徒を学校に定着させ、さらに成長させる」教育活動を推進する。  
(1) 生活リズムの確立 (2) コミュニケーション能力を身に付ける (3) 基礎・基本の定着  
(4) 課題解決能力の育成 (5) 学習習慣を身に付ける (6) 「キャリア意識」の育成 (7) 体力の向上
- 2 教職員**  
(1) 思考力・判断力・表現力を培う授業の実践 (2) 言語活動などを導入した授業の改善 (3) 体罰の防止  
(4) 研究・研修による自己の研鑽 (5) ライフワーク・バランスを図るとともに、校務の効率化の推進
- 3 学校経営**  
(1) 「授業出席率」の向上 (2) 「中退率」の減少 (3) 「進路未決定者数」の減少
- 4 方策**  
(1) 学習習慣を定着させ、自信と目標をもたせ、学力向上のサイクルを確立させる。  
(2) 個々の生徒にカウンセリングマインドをもって接することにより、安全で安心できる学校生活を保障する。  
(3) HR 活動や部活動、学校行事等を通して、生徒が相互に支え合い、切磋琢磨できる学習環境を構築する。  
(4) ボランティア活動などを通して、キャリア意識の育成を図るとともに、社会貢献に取り組む。  
(5) 業務改善を意識しつつ、「働きやすい職場」環境を醸成する。

今年度の目標と方策

### 1 学習指導

ア 授業の質の向上

- ・個別最適化の学びを模索し、「わかった」「できた」といえる授業に取り組む。
- ・探究活動を推進して、協働的な学習を展開する。
- ・デジタル技術を工夫・研究して、有効活用する方法を探る。

イ スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒の育成

- ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて基礎学力の向上を図る。
- ・小テスト等による達成感や成就感をもとに、「自発学習」を習慣づける。
- ・基礎力診断テストの結果を活用し、外部模範式を積極的に受験させる。

ウ 年間を通じた学習指導

- ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。
- ・「みのりゼミ」や講習会、オンライン英会話等、伸びる生徒には負荷をかけて、ワンランク上の学びを促す。
- ・「わからない」という発言を促し、理解不足のままにならない指導を行う。

### 2 キャリア教育指導

ア 組織的なキャリア教育の確立

- ・個々の生徒に対応できるシステムを模索する。
- ・キャリアサクセスの充実を図る。
- ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立するための再点検を行う。

イ キャリア教育を通して「社会的な自立」を促す

- ・学校生活の中で自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポート(仲間同士の支え合い)による学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。
- ・キャリアパスポートを活用して、生徒自らが自立した進路活動ができるよう支援する。

ウ 外部機関との連携や社会活動

- ・マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させ、将来設計につなげる。
- ・ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。
- ・自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。

### 3 生徒指導

「自他のチャレンジを尊重する」を合言葉に、組織的な生活指導の推進

- ア 安心安全な学校を創るとともに、いじめや体罰の根絶
- ・人権尊重の精神で、他人のチャレンジを邪魔しない意識を育成する。
- イ 落ち着いた学校生活
- ・ノーチャイム制により、自律的なスケジュール管理ができる力を育てる。
- ・全校で「笑顔で挨拶」を励行する。
- ・校風の正しい着用(特にスカート丈)と身だしなみ指導を推進する。
- ・コミュニケーション力の向上、社会で活動するためのマナーを身に付けさせる。
- ウ 文化祭、みのり杯等の行事を、工夫しながらの実施
- エ 生徒の自主性を育てるHR 活動や生徒会活動の推進
- オ 部活動や委員会活動を振興して、校内の雰囲気活性化
- カ 一年次の部活動参加率が、45%になるよう働きかける
- キ 国際理解や異文化理解について取り組み、世界情勢の変容を理解する

### 4 教育相談・保健指導(心と体の健康づくり)

ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能(スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等)の向上

イ 特別支援教育コーディネーターを中心に、通級指導等による配慮を要する生徒の支援

ウ いじめの未然防止と生徒の心身の変調や不安を、組織的に早期発見に努める

エ 体育や部活動を通して、スポーツの楽しさと体力の向上、健康管理の大切さを知る機会を設ける

オ 保護者や関係機関と密に連絡をとり、心身の変調を察知し、積極的に相談にのる環境を醸成する

### 5 募集・広報活動

ア 各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める

イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善を図る

ウ ホームページを充実して、中学校や適応指導教室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫する

エ NPO 等と連携して、本校における教育活動の理解啓発を行う

### 6 地域交流、保護者対応、ボランティア活動、防災

ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域の関係機関との連携を強化

イ 防災訓練など地域との交流活動を推進して、ボランティア活動を活性化する

ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る

エ 災害・震災等に備えた校内体制の整備(学校安全・防災対策委員会)と防災訓練の準備と検証を行う

### 7 経営企画室

ア 教員との連携を強化し、経営企画型の企画室の構築

イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画の具現化

ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映させる

### 8 環境整備担当

ア 清潔で安全な学校環境の維持整備

イ ゴみの分別指導や共通部分の清掃の徹底

ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する

### 9 図書室

ア 生徒の「読みたい」「知りたい」とした読書環境の充実

・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。

・授業に資する本を推奨するとともに、積極的に授業で活用する。

イ 英語多読ルーム、多読コーナーの充実

・英語における自発学習環境を整備する。

### 10 研究・研修

ア 観点別評価の在り方について、各教科で検討・研究する

イ 各自で研究課題を設定して、研究・研修に取り組む

・授業における指導技術の向上。

・教育相談(自尊感情等)にかかわる理解の深化を図る。

・ICT 機器を活用した、オンラインによる相談体制を構築する。

重点目標と方策

### 学習指導

- 「わかる」授業を推進し、個に応じた指導に取り組む。
- 探究活動を推進して、協働的で深く考える学習活動を推進する。
- ICT 機器の充実と利用を促進し、次世代教育の在り方を検討する。
- みのりゼミや補習補講を実施して、進路希望実現に向けた支援を行う。
- 英検や英検等の検定試験や資格取得試験の受験を励行し、自信をもたせる。

### キャリア教育

- キャリアパスポートを活用し、個に応じた指導を充実させる。
- ボランティア活動等を通して、積極的な社会参加を促す。

### 生徒指導

- マナーやルールを身に付けさせる。
- みのり杯や稔祭への主体的な参加を通じて、自発性や忍耐力を培う。
- 部活動の加入率を高めるとともに、ボランティア活動を推奨する。

### 教育相談・保健指導

○ 外部人材や支援組織の力を集約して、効果的な相談業務を推進する。

### 募集・広報活動

○ ホームページを充実させ、募集・広報活動を推進する。

### 経営企画室

○ 教員と連携を強化し、都民の視点に立った、効率的な組織運営を行う。

### 学校経営

○ 報告連絡相談を徹底し、組織として対応するとともに、人材育成に取り組む。